

19世紀前半におけるフランスの知識の普及書 (1)

Les Livres destinés à la diffusion des connaissances en France dans la première moitié du XIX^e siècle (1)

小山美沙子

Misako KOYAMA

はじめに

本稿筆者は、目下19世紀前半のフランスにおける女性のための世俗の知識の普及書について検討を進めているが、その背景の把握のために、出版文化が進展して行く当時の知識の普及書を含めた書物の出版の大凡の状況についても調べを行ってきた。19世紀は、前世紀の知的啓蒙書出版の伝統を継承し、これがより拡大して行く時代である。近年、A. Choppinらによる教科書の研究がなされてきたが、19世紀も含め、子供用から一般用までの知識の普及書の全体像を明らかにした研究が未だ存在していないのが現状である。拙稿を手始めに数回に亘って本論集に連載予定の研究ノートは、19世紀前半の知識の普及書の全容を解明するものではないが、少なくとも、女性のための知識の普及書の出版の背景にある当時の知識の普及書について、前世紀との関連や新たな現象についても触れ、主要事項を纏めておきたいと思う。まず第1回目は、フランスの19世紀前半の書物の出版の概況、フランス国内での知識の普及書の興隆、読者層を意識した多様な啓蒙書について纏めてみたい。

1. 19世紀前半の書物の出版の概況

フランス国内での書物の出版点数は、帝政末期から拡大傾向を見せ、復古

王政期に躍進を続け、七月王政下に引き継がれて行く。すなわち、大革命前は、せいぜい年間1,000点程度で、19世紀に入り、執政政府から第一帝政初期も、700-1,500点程度であった。これが帝政末期には、3,000-5,000点になり、復古王政末期には、7,000-8,000点(但し1829年を除いて再版ものの比重が高かった。)にまで達した。続く七月王政時代は、6,000-7,000点を維持していた。産業革命がピークを迎え、出版文化の更なる進展を見る第二帝政時代には、10,000点を優に超えることになる¹。

印刷部数については、18世紀に関して、Sobouleが「500部から3,000部」であると、出版部数に幅があることを示していた²。一方、Chartierは、19世紀初頭まで、1点当たり、「一般的に、それは、1,000部から2,000部のあいだ」でしかなかったと言っている³。いずれにしろ、出版部数は限られたものであった。1830年代の印刷技術の革新も、世紀後半ほどではなく、「19世紀半ばでは平均印刷部数はまだ3,000部でしかなかった⁴」という。又、F. Barbierは、Parisの印刷屋の申告状況から、1840年の平均印刷部数(書物だけではないと思われる。)を1,958部(6,220点)、1860年が、2,787部(13,541点)という数値を挙げている⁵。

確かに、19世紀前半(1815年以降)のParisの出版申告台帳(国立古文書館所蔵のcote: F/18*に属す資料)を調べてみると、七月王政時代に至っても、100部、200部、300部といった少ない部数が案外目につく。1841年の台帳でも、100部に満たないもの(最低で20部)さえいくつもあるのである。単独の版や1版当たりの部数(内容案内冊子を除く。)では、3,000部を超えた例は、案外少ない。勿論、売れ筋の書の中には、平均を遥かに上回るものもあった。例えば、C. A. Demoustierの*Lettres à Emilie sur la mythologie* (1786-1790)は、1812年版が6,300部であるが、これは、世紀初頭としては、例外的な出版部数である。

因みに、19世紀は小説の黄金時代を形成して行くが、M. Lyonsによると、世紀初頭、復古王政期までは、小説本ですら1,000-2,000部を超えることは稀であった。1830年代でも、平均して1,500-2,000部で、1840年を過ぎると、2,000-5,000部に達したという⁶。

一方、版型(format)については、既に19世紀以前に定着していた、手に取り易く、安価な小型版を採用する傾向が継承された。例えば、19世紀前半、人気を博したWalter SCOTTの主な作品で、1816年から1856年までにフランスで出版されたフランス語版111点⁷(全集も1点とみなす。)のうち、版型の判明している109点に関しては、in-4°の2点を除いて、全てが小型版である。その内訳は、in-8°が17点、in-12°が66点、in-18°が23点、in-32°が1点であった。既に、18世紀にポピュラーになっていたin-12°の版は、ここでも、1816年から1821年までの15の版全てに採用されている。一方、18世紀には、必ずしもポピュラーとは言えなかったin-18°の小型版が、この109点のScottの書で登場するのは、1823年になってからである。又、in-32°は、1827-1828年に出た全集本で採用された。in-12°よりも小型の版が、全体の2割以上に達している。こうした例は、書物の市場の拡大に呼応した現象である。

出版物のジャンルについては、特に王政復古時代までは、前世紀の書の再版率が高かった。古典演劇や寓話といった古典的な文学ジャンルへの根強い支持は、伝統的な教養への敬意の表われであり、啓蒙の時代の出版物、とりわけ、RoussseauやVoltaireといった啓蒙思想家の著書の盛んな再版は、18世紀精神の産物も又、知的ステータスの構成要素として受容されたことを示唆している。

一方、*Paul et Virginie* (1787)などの18世紀の小説本の再版に加えて、復古王政期から七月王政期にかけてベストセラーに加わるScottやDefoeの英国小説、七月王政期後半にベストセラー入りするSueやDumas père、Hugoなどといった現代小説家の作品の台頭は、小説が重要なジャンルとして読者を獲得していったことを窺わせる⁸。

因みに、少なくとも、M. Lyonsによるベストセラー一覧表は、どの年代でも、小説や詩、寓話、演劇などといった文学ジャンルにほとんど独占されていると言ってよい。これらは、出版点数においても優勢であったと思われる。例えば、1828年の出版物5,433点(新聞を除く)のうち、詩、演劇、小説、旅行記、修辞学、批評などといった文学関係の書は、1,344点で、24.7%を占めていた⁹。

一方、世俗の歴史を扱う傾向が強まり、啓蒙史学の生まれた18世紀に続く19世紀は、世俗の歴史への関心と探究心がより多様な展開を見せた時代であり、歴史小説や歴史書の出版の相継いだ時代であった¹⁰。ScottやDumas pèreなどによる歴史小説¹¹は、勿論ベストセラー入りしている。のみならず、Madame de Saint-Ouen (1779-1838)のフランス史の普及書である*Histoire de France, depuis l'établissement de la monarchie jusqu'à nos jours* (in-18, 1822)に至っては、M. Lyonsのベストセラー一覧表によると、1831年から1840年にかけては第4位、1841年から1845年までには第5位、1846年から1850年まででは、第1位を占めている¹²。因みに、歴史の分野(小説を除く。)は、先の1828年の出版物では、13.6%を占めており、18世紀の状況が継続している¹³。

又、18世紀に進展の見られた科学の分野の書物の出版は、19世紀に入っても維持された。Nicole et Jean DHOMBRESによる« Pourcentage de titres scientifiques parmi les livres de 1798-1825¹⁴ »によると、1798-1801年には、科学の分野のタイトルの書は、14.3%を占めており、以後、1822-1825年まで、14.1%から20.4%の間でほぼ安定した推移を示している。1828年においても、この分野に相当するものは、15.2%を占めている¹⁵。

最後に、18世紀低下の一途を辿った宗教書のパーセンテージは、カトリックが国教として復活し、更には、少なくとも多数派の宗教として認められた19世紀前半、下げ止まり、もしくは若干の復調傾向が見られた。1828年、「Livres religieux」は、13%を占めている¹⁶。1830年から1850年まで、カトリックの宗教書は、ほぼ8%から14%位で推移していた¹⁷。これは、特に、教理問答集や祈祷書などといった、常用の宗教書の好調な売れ行きに支えられたものと思われる¹⁸。とはいえ、さすがに、18世紀の半ば頃の宗教書の水準にまで達することはなかった¹⁹。

識字率の一応の向上²⁰と読者層の拡大、七月王政時代の大衆小説を含めた小説本の興隆や、印刷技術の革新(世紀後半ほどではないが)、より安価な小型本の普及、編集のプロの登場²¹や、新聞へのレイアウトを工夫した広告掲載といった商業戦略の進化など、多様な要因が、出版文化の時代を推進したものと考えられる。

2. 知識の普及書の興隆

B. Béguetは、19世紀後半、科学と技術の知識の大衆への普及が極めて多様な展開を見せたことを示唆し、更に、「*Pendant la première moitié du XIX^e siècle, la diffusion du savoir prend des formes*²²」として、既に世紀前半に知識普及の現象が進んでいたことを指摘している。その具体例のひとつに、彼は、科学の普及書の出版を挙げている。実際、Lyonsの作成したベストセラー一覧にも、医師のAudin-Rouvière(1764-1832)による保健・医学の普及書*La Médecine sans médecin*(in-8°, 1823)²³が、1826-1830年の表で、第10位にランクされており、この時期の出版推定総部数は、20,000-36,000部(Parisで計9版)にのぼるのである。

しかし、知識の普及書の興隆は、勿論、科学のジャンルに限られなかった。このことは、前世紀の多様な知的啓蒙書の再版例や、Madame de Saint-Ouenの*Histoire de France*の持続的なベストセラー入りの事実が物語っている。因みに、Lyonsがベストセラーにランクした時期における*Histoire de France*の出版推定総部数は、実に365,000-527,000部数(Parisで計21版)に達していた²⁴。

18世紀、既に様々な知的啓蒙書が出版され、19世紀に入って、その再版が盛んに行なわれてきた。啓蒙の時代精神の洗礼を受けた後の19世紀のフランスには、知の伝播をなし、これを受容する素地が十分あったのである。

事実、例えば、W. Duckett(1805-1863)は、自身が編集主幹となって企画、執筆を手掛けた百科辞典*Dictionnaire de la conversation et de la lecture*(in-8°, 52 vol., 1832-1839)の序文で、「*Nous osons croire que le Dictionnaire de la Conversation et de la Lecture sera, au milieu de ce chaos de passions, d'erreurs et de préjugés, un guide plus sûr que tous ceux qu'on n'a pu jusqu'à ce jour offrir au public*²⁵」と自負していた。ここには、啓蒙の時代精神を継承した知的啓蒙の意思が、はっきりと感じられるであろう。

他方、前世紀からの科学を始めとする諸学問の進歩、新しい芸術の潮流、産業社会の進展による、知識の複雑・多様化への対応の必要性が、「有益な会話をし、とりわけ実りある読書をする²⁶」ために必要な知識を提供する、こうした本格的な百科辞典を生んだのであった。本書は、読者の支持を得て、

1844-1851年には16巻本で補巻が²⁷、1853-1860年には第2版が刊行されることになる²⁷。交際社会をより良く生きるために、教養という知的ステータスの確保のために²⁸、学業や職業上の必要から、あるいは知的好奇心から、又は、出版文化のより良い享受のために、知識の普及書は大いに求められたものと考えられる。

ブルジョワジーが政治と文化の進展に重要な役割を果たすようになる、19世紀というブルジョワジーの時代の到来は、教育制度の整備の進展と出版文化の発展(とりわけ七月王政時代における)が促した知の民主化にも、少なからず負っていたものと思われる。

3. 読者層を意識した多様な啓蒙書

前世紀既にあった若い人向け、子供用、男女用、女子用と、読者対象を敢えて特定した普及書の再版の例は、一般の知的啓蒙書から子供用などにアレンジした書物も含め、多々あるが、この時代、新たにこの種の普及書が盛んに出版されることになる。とりわけ、*Emile*以降、青年期のみならず、幼年期も又重要な教育の時期と見なす考えが支配的になってくると、初等教育を享受する層の広がりと共に、子供用の知識の普及書の出版も相継いだのであった。例えば、「*L'enfance est l'âge le plus propre à l'étude des Langues*」と考える Scoppa (1762-1817) が執筆した子供用のイタリア語の入門書 *Elémens de la grammaire italienne mis à la portée des enfans de 5 à 6 ans* (in-12, 1811)²⁹ は、その後の詳しい再版状況などは不明だが、ある伝記事典によると、「成功を収めた³⁰」という。又、フランス語のアルファベットと綴り字の読み方の極初歩を子供が身に付けるための、*Abécédaire des petits garçons* (in-12) の初版(著者不明)が、1811年の出版報に掲載されている³¹。これは、既に旧制度時代に流布していたこの種の冊子の伝統を引き継いで、19世紀、盛んに出版された書のひとつで³²、出版部数は「4,000部」と記されている。その後、1839年には第14版³³が出て、更に1846年の出版報では、「第16版」が記載されることになる³⁴。好評であったものと思われる。

もっと年長の若い人向けの普及書については、例えば、Beauchamp (1767-

1832)の知育と徳育に有益な青少年向けの偉人伝、*Biographie des jeunes gens, ou Vies des grands hommes, qui par leur vertu, leur génie et leurs actions héroïques, sont dignes d'être proposés pour modèles à la jeunesse* (in-12, 3 vol., 1813)³⁵の出版(申告)部数は、Parisで出た初版が2,500部、1818年の第2版は1,500部であった。1823年には、Nancyで第3版が出ている。又、Biagioli(1768-1830)の*Grammaire italienne élémentaire, à l'usage de la jeunesse* (in-12, 1817)³⁶は、「若い人」向けのイタリア語の文法書で、初版が1,000部、第4版(1827年の出版報による。)で1,500部の出版申告がなされている。本書は読者の支持を受け続け、1846年に第9版、1859年には、第11版が出ることになる。

読者層を若者に限定しない、一般向けの普及書の出版も盛んであった。例えば、Bertrand(1795-1831)の地学の普及書、*Lettres sur les révolutions du globe* (in-18, 1824)³⁷は、「 tous ceux qui aiment à acquérir des connaissances sans pouvoir pourtant consacrer un temps considérable à l'étude »のための書で、「 des connaissances élémentaires que donnent l'éducation la plus commune³⁸ »を予め持ち合わせた人に理解可能なレベルを狙ったものである。これは、1828年の第3版については、1,000部の出版申告がなされている。その後、1845年に第6版、1879年には第10版が出ており、ロングセラーの書であった。彼は、同様の物理学の普及書、*Lettres sur la physique* (in-8°, 2 vol., 1824-1825)³⁹も出版しており、初版は各巻2,000部、第2版(1827年)では、500部の出版申告がなされている。

一方、教育制度の整備の進展に伴って、初等教員や初等教員能力資格証取得志願者のためのマニュアル本など、そして、とりわけ学校用の教科書の出版が盛んになっていった。

例えば、1831年から1833年にかけて、国が貧しい子供達のために初等学校に配布した初歩の教科書の中で、最も数の多い*Alphabet ou Premier livre de lecture*は、計100万部に達している⁴⁰。又、1798年のConseil d'Instruction publiqueを原型とする国の審査機関による学校用の認定教科書選定制度が形成されていき⁴¹、1802年から1848年までに、計2,503点が認定図書に指定された⁴²。認定図書の使用を促し、あるいは義務づける法令が出たこともあり、

国のお墨付きを得た認定図書は、リスクの多い市場で有利な立場に置かれたことは確かである⁴³。例えば、Bourdon (1779-1854) の *Elémens d'arithmétique* (in-8°, ●1821)⁴⁴ は、1821年9月25日付けで認定図書に指定され⁴⁵、1824年の第2版は2,000部、1825年の第3版は3,000部、1827年の出版報にある第5版と第6版は、計10,000部の出版申告がなされている。中等教育レベルのかなりしっかりした内容の書物で、1843年には第20版が出て、更に世紀後半に至るまで再版され続けた。

教員用のマニュアル本については、特に男子の初等師範学校の開設の進展や初等学校の教員数が増加するにつれ⁴⁶、様々な書物が世に出た。例えば、初等師範学校用の認定図書で、1817年から2月革命前までに認定を受け、「*Pédagogie*」に属す「*manuel*」や「*guide*」というタイトルのある書物だけに限ると⁴⁷、Matter (1791-1864) の *Nouveau manuel des écoles primaires, moyennes et normales, ou Guide complet des instituteurs et des institutrices* (in-18, 1836)⁴⁸ など、11点ある。又、1816年に、初めて初等教員の能力資格試験についての規定が発令されたが⁴⁹、1837年に、Lamotte (生没年不詳) らによる *Manuel des aspirants aux brevets de capacité pour l'enseignement primaire élémentaire et pour l'enseignement supérieur* (in-8°)⁵⁰ が、受験マニュアル本としては初めて、初等師範学校用の認定図書として公教育省の作成したリストに登場した⁵¹。

ところで、マニュアル本(助産婦用など前世紀にもあった。)の拡大は、教育以外の分野でも見られ、文学などのクラシックな教養を手軽に身に付けるための教養書から家庭医学などの実用的な知識の普及書まで、読者の多様なニーズに応える手軽な普及書が発展を見ることがになる。先に挙げた、保健・医学の普及書 *La Médecine sans médecin* もそのひとつである。一方、書籍出版業者 Nicolas-Edme RORET (1797-1860) による「*collection des Manuels-Roret formant une encyclopédie des sciences et des arts*⁵²」は、彼の死後も出版が継続された人気の普及書で、趣味的な教養から職業上の知識まで、まさに読者の多様なニーズに応えるテーマ別の百科全書的な叢書であった。A. Fierro によると、1821年から1849年までに出版されたこの人気を博したシリーズは、375点にのぼる⁵³。

終わりに

19世紀における、様々な知識の普及書の盛んな出版は、前世紀の啓蒙の時代精神の継承と出版文化の進展という時代状況の中での、当然とも言える現象である。そして、知識の普及書は、前世紀の啓蒙書の在り方を継承しつつ⁵⁴、時代の進展と共に、新たな相貌が付加されて行くことになる。例えば、初等学校の整備と拡充が、初等学校用を特に意識した普及書や教員用のマニュアル本、教員志願者用の受験参考書の出版という新たな現象を生むことになった。マニュアル本のような、実用的な知識が重視される時代こそは、複雑化していく社会、文化の担い手として浮上して行くブルジョワの時代の到来をはっきり認識させるものであろう。

註

- 1 CHARTIER (Roger) et MARTIN (Henri-Jean), *Histoire de l'édition française*, tome 2, Fayard, 1987, pp. 730-737; ESTIVALS (Robert), *La Statistique biographique de la France sous la monarchie au XVIII^e siècle*, Imprimerie Nationale, 1965, pp. 407-415; LYONS (Martyin), *Le Triomphe du livre*, Promodis, 1987, pp. 12-13 参照。19世紀後半、書物の刊行部数の増加とともに、印刷部数も大幅に増大し、世紀後半の「五十年間で4倍になった」という。(ロジェ・シャルチエ『読書の文化史』福井憲彦編訳、新曜社、1993年、第49頁参照。)
- 2 SOBOULE (Albert), LEMARCHAND (Guy) et FOGEL (Michèle), *Le Siècle des Lumières*, tome 1, PUF, 1977, p. 626 参照。
- 3 シャルチエ『読書の文化史』福井憲彦編訳、新曜社、1993年、第48頁参照。
- 4 SOBOULE, *Op. cit.*, pp. 419-420 参照。尚、Chartierが典拠としているのは、以下の文献である。ALLEN (James Smith), *Popular French Romanticism. Authors, Readers and Books in the 19th Century*, Syracuse University Press, 1981, pp. 134-135; BARBIER (Frédéric), « Une Production mutilée » in *Histoire de l'édition française*, tome 3, 1990, pp. 105-130.
- 5 BARBIER, *Ibid.*, p. 122, pp. 129-130 参照。先のChartierの挙げた数値も含め、印刷部数の平均値は、書物以外の定期刊行物なども含まれている可能性がある。
- 6 LYONS, *Le Triomphe du livre*, p. 84 参照。
- 7 « Tableau 10. Histoire de la publication en France des principales œuvres en prose de Walter Scott, 1816-1851 » (*Ibid.*, pp. 132-133)の年代順の一覧表による。以下の数値は、この表をもとに本稿筆者が独自に算出したものである。
- 8 LYONS, « Les best-sellers » in *Histoire de l'édition française*, tome 3, pp. 415-419 参照。
- 9 *Histoire de l'édition française*, tome 2, Fayard, pp. 739-740 に引かれているデータ (Ph. Charles, « Statistique littéraire et intellectuelle de la France » in *Revue de Paris*, 1829, pp. 191-243 から D. Bellos によって引用されたもの。)を元に本稿筆者が独自に算出した。

- 10 河盛好蔵他編『フランス文学史』新潮社、1673年、第190-192頁参照。
- 11 Lyonsのベストセラー一覧にあるScottの歴史小説は、*Ivanhoé* (1819)、*Quentin Durward* (1823)などで、Dumas pèreについては、*Les Trois mousquetaires* (1844)、*La Reine Margot* (1845)などである。(« Les best-sellers » in *Histoire de l'édition française*, tome 3, 1990, p. 418, p. 422参照。)
- 12 *Ibid.*, pp. 419-423参照。Madame de Saint-Ouen (Jeanne-Mathurine Ponctis de Boën)の本書は、大成功を収め、1880年には、最後の版(第31版)が出た。(F. BUISSON (sous la dir. de), *Dictionnaire de pédagogie et d'instruction primaire*, tome 2, 1^{ère} partie, Hachette, 1887, p. 2666参照。)尚、この他、例えばThiersの*Histoire de la Révolution française* (1823-1827)も1831-1840年にベストセラー入りしている。
- 13 本稿註9に同じ。
- 14 DHOMBRES, *Op. cit.*, p. 348参照。
- 15 本稿註9に同じ。但し、医学や数学、博物学などの他に、「Arts industriels」、「Astronomie, almanachs」の出版点数も含まれている。
- 16 本稿註9に同じ。
- 17 *Histoire de l'édition française*, tome 3, pp. 449-450参照。
- 18 *Ibid.*, p. 430参照。Lyonsの作成したベストセラー一覧にも、Fleuryの*Cathéchisme historique* (1679)があり(普及版の*Petit Cathéchisme historique*を含む。)、1811年から1845年まで、常にベスト3に入っており、1846-1850年においても、第4位である。(*Ibid.*, pp. 415-423参照。)
- 19 18世紀の状況については、本稿の註54で示した拙著の第3章参照。尚、教育界におけるカトリックの復権をもたらしたLoi Falloux (1850)に教育界が支配された第2帝政期は、カトリックの宗教書の出版が勢いを盛り返し、最高で20% (1860年頃)に達することになる。
- 20 あくまでも、結婚の際の公文書へのサインの自著率であり、必ずしも正確とは言えないが、比較的識字率が良好なフランス北東部に位置するNord県のデータによれば、1786-1790年には、男性が、45%を超える程度で、女性がそれより20%下回っていた。1816-1820年には、男性は、50%を超え、女性も30%を超えている。1855年には、男性は、70%近くまでアップし、女性も漸く50%に達した。(LYONS, *Le Triomphe du livre*, p. 28, L.-H. PARIAS (sous la dir. de), *Histoire générale de l'enseignement et de l'éducation*, tome 3, Nouvelle Librairie, 1981, pp. 13-14参照。)
- 21 シャルチエ『読書の文化史』第53頁参照。尚、旧制度時代の書物に対する組織的な出版検閲許可制度は、19世紀そのままの形で蘇ることはなかったが、執政政府時代も第一帝政時代も、書物は、発売前に予め検閲を受けることになっていた。但し、実際には、検閲で問題になるような出版物は限られていた。(*Histoire de l'édition française*, tome 2, p. 704参照。)しかも、1815年の« décret du 25 mars »で、Napoléonは出版物に対する事前の検閲制度を廃止し、以後、少なくとも書物に対する広範囲な検閲制度は復活することがなかった。但し、事前の出版申告と法定納本が義務づけられるなど、書物の出版は当局の監視下に置かれ続けた。又、「loi du 9 septembre 1835」では、演劇作品に限って検閲制度が復活した。新聞については、その後も、「ordonnance royale du 20

- juillet 1815 »や« ordonnance du 24 juin 1827 »で検閲制度が、« loi du 9 septembre 1835 »で出版規制が復活した。(Grand Dictionnaire universel du XIX^e siècle, III, Administration du Grand dictionnaire universel, 1867, pp. 771–712, *Histoire de l'édition française*, tome 2, 1867, pp. 694–717, *Ibid.*, tome 3, pp. 42–48 参照)。
- 22 BÉGUET (Bruno), « La Vulgarisation scientifique au XIX^e siècle » in *La Science pour tous*, Edition de La Réunion des Musées nationaux, 1994, p. 7.
- 23 Joseph-Marie AUDIN-ROUVIEREによる*La Médecine sans médecin, ou Moyens préservatifs et curatifs d'un grand nombre de maladies, par une méthode purgative, perfectionnée* (in-8°, frontispice, xxx–427 p., l'auteur, 1823) は、同じ著者による*Le Médecin sans médecine, ou Manuel de santé* (1794)を元にした書と思われる。(Grand Dictionnaire universel du XIX^e siècle, I, 1866, p. 925 参照。)本書は、1840年に第15版が出た。
- 24 LYONS, « Les best-sellers » in *Op. cit.*, pp. 419–423 参照。
- 25 DUCKETT, « Avis placé en tête de la première édition (1832) » in *Dictionnaire de la conversation et de la lecture*, tome 1, Belin-Mandar, 1853, p. i.
- 26 *Catalogue général*, Belin-Mandar, sept. 1832 参照。
- 27 第18巻まで刊行済みの1835年4月時点での出版社の出版案内カタログ広告には、「15,000人の予約購読者の支持」を得ていることが誇らしげに記載されている。(Catalogue général, Belin-Mandar et Devaux, avril 1835 参照。)尚、Duckettとその百科辞典については、拙論「七月王政下のある女性用百科辞典—女性のための知的出版物に見る女子啓蒙の試み—」『日仏教育学会年報』第3号、1997年3月参照。
- 28 例えば、Bailly de Merlieux (1800–?) は、物理学の知識の普及書*Manuel de physique* (1825)の第6版の前文で、「« l'étude de la nature »の必要性を説くのに、« maintenant que l'instruction plus que jamais devient la mesure du mérite de l'homme et de l'estime qu'on doit lui accorder, comment celui qui se destine à paraître dans le monde pourrait-il ignorer la cause et les principaux effets de tout ce qui existe autour de lui? »(*Ibid.*, 4^e éd., Roret, 1834, p. 10. 下線は本稿筆者による。)と言っている。
- 29 SCOPPA (abbé Antonio), *Elémens de la grammaire italienne mis à la portée des enfans de 5 à 6 ans*; ouvrage en dialogues, divisé en XXXVI leçons, dont les quatre premières contiennent un *Traité de la Prononciation italienne*; et les six dernières, un petit Vocabulaire, ou plutôt un petit Recueil de mots et d'expressions italiennes les plus nécessaires à tous les Commençaans, pour parler la langue d'usage, in-12, viij-100, Courcier, 1811. 本書は、子供用の初歩のイタリア語の学習書である。著者は、序文で、まず、「幼年期は、言語の学習に最も相応しい年代である」としている。更に、外国語学習がもたらす母国語学習の効用が知られているが、フランス語に極めて類似しているイタリア語の学習は、子供達には容易であると、イタリア語学習を推奨している。(Ibid., pp. v–vij 参照。)尚、フランスでイタリア語の教師をしていたイタリア人Scoppaは、イタリア語の作詩法の普及書などと共に本書をフランスで出版した。(Biographie Universelle ancienne et moderne, tome XXVIII, Michaud, pp. 546–547 参照。)
- 30 *Ibid.*, p. 547 参照。
- 31 *Journal général de l'imprimerie et de la librairie*, p. 261, 9 juillet 1811 参照。「*Abécédaire des*

- petits garçons*, avec fig., in-12 de 3 feuilles, tiré à 4000 exemplaires, impr. d'Imbert » とある。
- 32 いわゆる « abécédaires » の類いは中世からあったという。17-18世紀の Bibliothèque bleue にも採用され、19世紀に継承され、売れ筋の小冊子本であった。(*Dictionnaire encyclopédique du livre*, Editions du cercle de la Librairie, tome 1, 2002, pp. 4-7 参照。) Ségolène LE MENによると、フランス国立図書館は、「 un fond de 2 100 abécédaires édités en France du Premier au Second Empire, illustrés ou non » (LE MEN, « Les Abécédaires à figures en France au XIX^e siècle in *Histoire de l'édition française*, tome 3, pp. 489, p. 491.) を、未整理のまま所蔵しているという。その後も研究が進展した様子はなく、本格的な研究はこれからであろう。本稿筆者も、積極的な調べをする余裕がなかった。したがって、残念ながら、初歩的過ぎるレベルのこの種の普及書については、とりあえず知的啓蒙書の検討対象に加えていないが、今後の課題である。
- 33 *Abécédaire des petits garçons, avec des leçons tirées de leurs jeux et de leurs occupations ordinaires*, 14^e éd., ornée de jolies figures, in-12, 71 p., P. C. Lehubey, 1839. 本書は、ボール遊びや縄跳びをする男の子達を描いたカラーの口絵(本文の講読のための挿し絵)が1枚付き、フランス語のアルファベット、母音と子音、1から10までのアラビア数字、綴り字の読み方が簡単にまとめられており、後半には、練習用の極簡単な短いお話が幾つも入れられている。最終頁には、1から10までの数字を、フランス語とアラビア数字、ローマ数字で表記した対照表が添えられている。
- 34 *Bibliographie de la France*, 17 janv. 1846, p. 25 参照。出版報によると、「 in-12 de trois feuilles » とあり、初版からの規模を遵守したものと思われる。
- 35 本書は、総頁数、1,624頁で、表紙に、「 Ornée de quatre frontispices allégoriques, et de soixante-dix portraits » とある。Alphonse de BEAUCHAMPは歴史家で、 *Histoire de la guerre de Vendée et des chouens* (1806) で大成功を取め、様々な歴史書を世に出した。(*Dictionnaire de biographie française*, tome 5, Librairie Letouzey et Ané, 1951, pp. 1050-1051 他参照。)
- 36 BIAGIOLI (Giosafatte), *Grammaire italienne élémentaire, à l'usage de la jeunesse*, viij-208 p., chez l'auteur, 1817. 本書は、末尾に、簡単な講読テキストが収められている。イタリア人の Biagioli は、イタリアでギリシャ・ラテンの文学を教えていたが、後、Paris に定住し、「イタリア語とイタリア文学を教えて」、 « grande réputation » を得たという。(*Grand Dictionnaire universel du XIX^e siècle*, II, 1867, p. 670 参照。) Biagioli は、既に1805年に、より本格的なイタリア語の文法書と思われる *Grammaire italienne élémentaire et raisonnée, suivie d'un traité de la poésie italienne* (in-8°, xij-398 p., chez l'auteur) を出版しており、これも1825年に第5版が出ている。
- 37 BERTRAND (Alexandre-Jacques-François), *Lettres sur les révolutions du globe*, in-18, VII-172 p., 1 pl., Bossange frères, 1824. 本書は、後の版で増補改訂を行ない、第2版(1826年)では、in-18のサイズで総頁数が360頁、第5版(1839年)では、in-8°のサイズで総頁数が508頁になっている。尚、Bertrand は、Paris 大学医学部の博士号を持つ医師で、有名な新聞 *Le Globe* (1824-1832) の創刊に参与し、5年もの間、科学の分野の執筆を担当した。(*Dictionnaire de biographie française*, tome 6, 1954, pp. 264-265 参照。)
- 38 BERTRAND, *Op. cit.*, 6^e éd., Tessier, 1845, p. [III].

- 39 BERTRAND, *Lettres sur la physique*, in-8°, 2 vol., pl., Bossange frères, 1824–1825. 総頁数は1,092頁にも及ぶ。第2版以降の再版状況は不明であるが、普及書にしては、規模が大きいため、*Lettres sur les révolutions de la globe*ほど出回らなかった可能性がある。
- 40 « Circulaire relative à la publication de livres de lecture et à leur distribution dans toutes les écoles » (2 nov. 1831) in *Les Manuels scolaires en France, textes officiels, 1791–1992*, INRP, 1993, pp. 125–127, « Circulaire relative à l’envoi de livres élémentaires pour les élèves indigents des écoles primaires communales » (2 juin 1834) in *Ibid.*, pp. 132–133 参照。
 尤も、公教育における教科書の使用は、順調に行ったわけではない。1793年12月19日の公教育の組織に関する政令で、初等教育に携わる教員に対して、「livres élémentaires adoptés et publiés [...] par la représentation nationale」に準拠した教育をすることを、初めて国が義務づける政令が出てから数十年経た1833年秋の調査によると、「près de la moitié des écoles sont partiellement ou totalement dépourvues d’ouvrages」であったという。(« Décret « Bouquier » sur l’organisation de l’Instruction publique » in *Les Manuels scolaires en France, textes officiels, 1791–1992*, INRP, 1993, pp. 94–95, CHOPPIN, *Les Manuels scolaires: histoire et actualité*, Hachette, 1992, p. 31 参照。)
 実際、同一教科書を用いて一斉授業を行なう「enseignement simultané」の方式を採用していたのは、1834年の調査で、小学校の総数45,109校のうち、24,310校に止どまり、18,814校が伝統的な「enseignement individuel」を、1,985校が1815年にイギリスから導入された「enseignement mutuel」を採用しており、教育の実態に教科書が適合していなかったのである。一斉授業方式が一般化するのには、1850年代からであるという。とはいえ、七月王政時代、一斉授業の形態が進展していくにつれ、教科書の使用率も向上し、1833年から10年間で、「le nombre des écoles partiellement ou totalement démunies d’ouvrages tombe de 43% à 23%」になったという。(CHOPPIN, *Les Manuels scolaires: histoire et actualité*, pp. 7–8, p. 33 参照。)
- 41 初等教育用については、「Arrêté de François de Neufchâteau créant un Conseil d’Instruction publique」(6 oct. 1798)において、既に、教科書や学習帳などの審査をConseil d’Instruction publiqueが担当する旨記載されていた。中等教育(lycées)用の教科書については、1802年の「arrêté」によって、授業で使用すべき教科書のリストの準備を委員会が行なうことになった。(CHOPPIN, *Les Manuels scolaires en France-textes officiels, 1791–1992*, INRP, pp. 100–101, CHOPPIN, *Les Manuels scolaires: histoire et actualité*, Hachette, 1992, p. 27 参照。)
- 42 « Nombre de livres scolaires approuvés annuellement par les diverses commissions d’examen de 1802 à 1875 » in *Les Manuels scolaires: histoire et actualité*, p. 37 参照。認定教科書の総数には、その大部分を占める初等教育と中等教育用だけでなく、高等教育、師範学校や幼稚園、プロテスタントやユダヤ教系の初等学校の宗教教育の書も含まれると思われる。
- 43 例えば、「Arrêté relatif aux livres classiques qui doivent être mis à l’usage des lycées et des collèges」(17 sept 1811)や、「Statut sur les écoles primaires élémentaires communales」(25 avril 1834)がそうである。但し、認定教科書の使用義務について、制裁措置を伴うような法規は発令されていない。(Les Manuels scolaires en France-textes officiels, p. 107, p.

131 参照。)

尚、1841年11月1日の「Rapport au Roi, par le Ministre secrétaire d'Etat au département de l'Instruction publique, sur la situation de l'instruction primaire」の報告データによると、公立と私立の初等学校、計55,342のうち、認定教科書のみを使用している学校は、約8割に達しているが、私立だけ(計18,557校)では、約7割であった。又、教科書の数が十分である学校は、全体の約6割であった。(Les Manuels scolaires en France-textes officiels, pp. 147-149 参照。)

- 44 BOURDON (Pierre-Louis-Marie), *Elémens d'arithmétique*, in-8°, 5^e Coursier, •1821 [以下本稿で「•」は出版報掲載の年を示す]。初版は、1821年4月20日の出版報(*Biographie de la France*)に掲載されているが、目下の所現物を確認できていない。因みに、本稿筆者架蔵の第15版(in-8°, xij-408 p., Bachelier, 1837)の表紙には、「OUVRAGE ADOPTÉ PAR L'UNIVERSITÉ」と認定図書であることが明記されている。本書は、極基礎的な概説で序論を始めているが、「AVERTISSEMENT」に「Ces Elémens sont principalement destinés à des jeunes gens qui ont à subir des épreuves difficiles, et dont les premiers pas dans la carrière des sciences, doivent se faire d'une manière sûre et profitable»(*Ibid.*, p. viij)とあるように、高等教育課程への進学を目指す生徒達のレベルを念頭に置いた学習書であると考えられる。

尚、Bourdonは、理学博士号を持ち、国立のリセの数学教授職などを歴任し(1821年まで)、以後、視学官やEcole polytechniqueの入学試験官などを務め、教育界で活躍した人物であった。(HAVELANGE (Isabelle), HUGUET (Françoise), LEBEDEFF (Bernadette), *Les Inspecteurs généraux de l'Instruction publique, dictionnaire biographique, 1802-1914*, INRP, Editions du CNRS, 1986, pp. 187-188 参照。)

- 45 Ministère de l'Instruction publique et des cultes, *Liste chronologique et officielle des ouvrages d'enseignement supérieur et secondaire, approuvé de 1802 au 1^{er} septembre 1850*, [1851], impr. de Paul Dupont, p. 41 参照。
- 46 初等学校の教員の総数は、1837年が59,735人、1843年が75,535人であった。(A. PROST, *Histoire de l'enseignement en France, 1800-1967*, 1968, Armand Colin, p. 108 参照。)
- 47 Ministère de l'Instruction publique et des cultes, *Liste officielle des ouvrages qui ont été autorisés depuis l'année 1802 jusqu'au 1^{er} septembre 1850, pour le service de l'instruction primaire, avec indication de la date de l'autorisation*, impr. de Paul Dupont, [sans date], pp. 15-17 参照。「Pédagogie」という分類項目は、このリストにあるものである。1817年以前の認定図書については、「Anciens ouvrages autorisés comme livres d'enseignement et de lecture」という項目に認定の日付なしでまとめられており、教育学関係のものは、Rollinの*Traité des études*や、Fénelonの*De l'éducation des filles*の取められた*Œuvres choisies*くらいしか見当たらない。(Ibid., p. 1 参照。)
- 48 MATTER (Jacques), *Nouveau manuel des écoles primaires, moyennes et normales, ou Guide complet des instituteurs et des institutrices*, in-18, 280 p., Roret, 1836。本書は、教授法、教育法規、通常の初等学校や、その他基礎レベルの多様な民衆教育施設など、多岐に亘るテーマの概説書である。出版の年に、認定図書に指定された。尚、Matterは、国立のコレージュで歴史教師を務めたこともあったが、1820年から1846年まで、初等教育や

- 図書館などの視学官を歴任した。1833年、初等教育関係の官報である *Manuel général ou Journal de l'instruction primaire* の編集に携わるなど、初等教育界で活躍した人物である。(HAVELANGE, HUGUET, LEBEDEF, *Les Inspecteurs généraux de l'Instruction publique, dictionnaire biographique*, pp. 499–501、BUISSON, *Nouveau Dictionnaire de pédagogie et d'instruction primaire*, Hachette, 1911, pp. 1273–1274 参照。)
- 49 CHERVAL (André), « Instruction sur les examens pour la délivrance des brevets de capacité pour l'instruction primaire » (14 juin 1816) in *L'Enseignement du français à l'école primaire, textes officiels*, tome 1, 1791–1879, INRP, 1992, pp. 69–70 参照。
- 50 本書は、1837年10月6日付けで認定図書となった。(Ministère de l'Instruction publique et des cultes, *Liste officielle des ouvrages qui ont été autorisés depuis l'année 1802 jusqu'au 1^{er} septembre 1850, pour le service de l'instruction primaire, avec indication de la date de l'autorisation*, impr. de Paul Dupont, [sans date], p. 16 参照。)
- 51 LAMOTTE (L.-Al.), MICHELOT (Auguste-Charles-Jean), MEISSAS (Achille), *Manuel des aspirants aux brevets de capacité pour l'enseignement primaire élémentaire et pour l'enseignement primaire supérieur*, 4^e éd., in-8°, 523 p. et pl., Hachette, 1837 のことであると思われる。同年10月6日付けで、認定図書となった。初版の出版年は、目下の所わかっていない。尚、本稿の註50のリストでは、もうひとつ、女子の初等学校教員能力資格試験のマニュアル本が1838年に認定図書として登場している。
- 52 この叢書のひとつである、BOITARD (Pierre), *Nouveau manuel complet d'entomologie*, nouvelle éd., revue et considérablement augmentée, tome 2, Roret, 1843の裏表紙の広告参照。
- 53 FIERRO (Alfred), « Production de titres des Manuels Roret » in *Histoire de l'édition française*, tome 3, p. 444 参照。Fierroによると、Roretの最初の書籍カタログが出たのは、1822年で、1821年から最後の書が出た1939年まで計905点が出版された。(Ibid., pp. 443–444 参照。)
- 尚、Roretの書籍カタログ (*Librairie encyclopédique de Roret*, mars 1862, pp. 5–31)には、「encyclopédique」という表現に相応しい、多様なジャンルの叢書のリストが挙げられている。
- 54 前世紀の出版及び19世紀の再版の概況については、拙著『フランスで出版された女性のための知的啓蒙書(1650–1800年)に関する一研究』(溪水社、2010年)の第3章及び第4章参照。